

2018 年度事業報告

学校法人いづな学園

はじめに

「飯綱の自然の中で五感を育み、感性豊かな子どもを育てます」

「私たちいづな学園は、自らが幸せな人生を選び取る 自由で確立した人間を育てます。」

私たちいづな学園は、かけがえのない「子ども期」の自由で純真な心を何よりも大切にしています。飯綱高原の豊かな自然の中で、五感を育み、自然環境や歴史を踏まえ体験を通した学習を行います。競争よりも様々な人々と共に学ぶ共感と、教科書だけでなく手と体を使って学ぶ本当の知恵を大切にしています。そして、自らが幸せな自分の人生を選び取る自由で独立した人間を育てるシステムを実践して、明るくたくましい子どもたちが育っています。

どの子ども自分らしく精一杯幸せになって欲しい。今日の不幸な青少年の問題を解決して、日本の幸せな明日を拓くために、どうぞ皆様のご指導とご支援を心よりお願い申し上げます。

(ホームページより)

1. いづな学園事業計画

<概要>

2018年度は、園児・児童・生徒数の低迷により根幹となる保育料授業料収入及び補助授業収入の減少、寄付金収入の減少などに加え、人件費の増加の要因で約1,500万円の赤字決算となった。

数年来の課題である、幼稚園からグリーン・ヒルズ小学校への入学は3名と良い傾向にあるが、グリーン・ヒルズ小学校から中学校への進学が1名のみで課題を残した。

初めての試みである「グリーン・ヒルズ親子自然体験教室」は手探りの状態ではあったが、2泊3日の参加者20名、講演会では200名が集まり盛会となった。運営面、広報など多くの検討課題が明確となったのは、今後の学園運営にも活かしていく必要があると考えられる。

<事業計画>

- 1) 幼稚園から中学校まで年齢に応じた自然体験活動の充実と、学園全体の自然教育のつながりを目指して教職員研修を実施した。
- 2) 親子自然教室を機会に、ライフジャケット、プランクトンネット、双眼実態顕微鏡や展示装置など備品を整備した。

<施設・備品整備>

- 1) 子育て支援施設の建設は2019年度の事業とし、業者の選定、申請などの準備を進めた。
- 2) 園庭・校庭の危険木の伐採及び整備を行った。
- 3) 屋根雪の凍結による雨漏り対策については、建設業者とも相談をしたが良い案がなく行き詰っている状態である。抜本的な対策も視野に検討する必要があると考えられる。

2. こどもの森幼稚園

<概要>

- 1) 自然の中での活動や体験を音楽・絵画・言語などの表現活動へ繋げることを目標とした。教職員が、親子自然教室で学んだ恐竜への関心を園児達に繋げ、オリジナルオペレッタ「にじ色のたまご」も創作して11月のオペレッタ会で披露した。このことは、年長児の創作劇作りなどの表現活動に活かされた。
- 2) つぼみ子育てサロンを幼稚園で開催し、つぼみ参加者や弟妹を含めて新入園児20名の入園につながった。
- 3) 未満児受入れや保育時間、保育料など社会や保護者の要求が多様になっているが、施設型への移行を踏まえて、継続的に検討していく。
- 4) 地域との関係は、森に出掛けることが多く構築することが難しかった。

<主な事業>

- 1) 子育て支援施設の建設は、2019年度の事業とした。
- 2) つぼみ子育てサロンと未就園児オープンDAYの同時開催により、幼稚園に関心のある親子がつぼみ子育てサロンに入会するなど、一定の成果が確認された。
- 3) 施設型幼稚園への移行手続きが完了し、2019年度から施設型の幼稚園となる。引き続き、経営検討を行う必要がある。
- 4) 幼稚園周辺にある農業法人等の活動へ参加して農業活動を通して地域交流を図る事業は、園行事の多さも影響し、困難であった。

<設備・機器の整備>

- 1) 子育て支援施設の施設整備は次年度事業とした。
- 2) 園庭遊具は、山おやじの会(卒園保護者父の有志の会)を中心に、ロープ遊具などの整備を行った。坂道の整備は次年度事業とした。
- 3) 園庭樹木の整備は、森林税を財源とする「自然保育活動フィールド等整備事業」の採択を受けて行った。園舎下側の駐車場周囲のドイツトウヒを伐採・枝打ちして林床を整備することにより、倒木による危険性を回避すると同時に風通しのより明るい遊び場が確保できた。
- 4) ライフジャケットの整備は、保護者の会(どんぐりの会)の会費残高が大きくなったとのことで、どんぐりの会で年少児用を購入して頂いた。

<2018年度末の組織・体制>

在籍数 54人

教職員数 12人

本務教職員 9人(園長1、副園長1、教諭5、野外指導1、事務1)

兼務職員 3人(未収園児担当2、補助1)

3. グリーン・ヒルズ小学校

<概要>

- 1) 飯綱高原の自然環境を最大限に取り入れて、体験活動やプロジェクト、基礎学習などの取り組みを進めようとしてきた。また、そのための教師の研修を深めるように努めてきた。

- 2) 一人ひとりの個性を生かせるような教育活動を前面に出し、グリーン・ヒルズでなければできないような教育について積極的にアピールしていくように努めてきた。

<2018年度の活動内容に対する評価>

1) 自然体験の重視

プロジェクトによるリンゴ園を中心とした活動とそれにかかわる作業体験、大池へ出かけての野鳥の観察、飯綱スキー場でのスキー学習など、学校周辺の豊かな自然環境を取り入れた活動を進めることができた。また、リンゴ園の作業を通して人々とかかわったりすることにより、地域とのつながりを深めることができた。飯縄山登山などの実施により、体力作りにも取り組むことができた。

2) 「プロジェクト学習」を通じた自律性の育成

リンゴ園プロジェクトに対しては、小学校全体で取り組み、栽培から管理、加工、販売活動など、様々な活動に積極的に取り組むことができた。販売活動では、善光寺でのびんずる市への出店や長野電鉄での販売など、プロジェクトのねらいや本質に迫る活動を展開することができた。活動を通して、子どもたちの達成感や満足感を高めることにつながり、自律性の育成に大きな成果を得ることができた。

3) 基礎学習

低学年、高学年」の2学級編制により、集団学習（セミナー）、個別学習を行ってきた。少人数学級によるきめ細かな指導を心掛けてきたが、発達段階に幅があるため、担任の負担は大きかった。指導のあり方について、さらに研究を深めていく必要がある。

4) 自治活動

一人ひとりの自律性の育ちを期待して、イニシアティブタイムやスペシャルタイムなどに取り組んできた。相互のつながりなどを大事にし、互いに尊重し合える集団に育ちつつある。

5) 国際社会での発信力の育成

外国語活動を中心に置き、学習を通して自己の表現力を高めていけるように取り組んだ。講師による丁寧な指導により、英語検定などでも成果をあげることができた。発信力の育成という点では、教材やシステムの整備などを一層進めながら、さらに努力を重ねていくようにしたい。

<2018年度末の組織・体制>

在籍数 16人

教職員数 11人

本務教職員 4人（校長1、教諭2、養護教諭1）

兼務教職員 3人（教頭1、補助教員1、運転・事務担当1）

非常勤教職員 4人（音楽講師1、英語指導2、補助教員1）

4. グリーン・ヒルズ中学校

<概要>

- 1) 飯綱高原の自然環境を最大限に取り入れて、体験活動やプロジェクト、基礎学習などの取り組みを進めようとしてきた。また、そのための教師の研修を深めるように努めてきた。
- 2) 一人ひとりの個性を生かせるような教育活動を前面に出し、グリーン・ヒルズでなければできないような教育について積極的にアピールしていくように努めてきた。
- 3) 親子自然教室（小学校5・6年、中学校）

「水の中の世界」と題して、水中の生き物を中心に取り上げ、夏休み中に2泊3日の事業を実施することができた。飯綱高原の豊かな自然環境を積極的に取り入れた最初の事業として、大きな成果を得ることができた。

<2018年度の活動内容に対する評価>

1) 自然体験の重視

小学校に比較して自然体験は少なかったが、学校周辺での野鳥の観察、神代桜への写生会、飯綱スキー場でのスキー学習など、学校周辺の豊かな自然環境を取り入れた活動を進めることができた。また、飯縄山登山では保護者の協力を得ながら、体力づくりとあわせて自律性や関係性の伸長につなげることができた。

2) 「プロジェクト学習」を通じた自律性の育成

クラスプロジェクトとして「ツリーハウス」に継続して取り組んできた。これまでの取り組みから、その活用方法まで活動を発展させ、3年生にとっては大きな満足感を得ることにつながった。個人プロジェクトでもそれぞれの追究を深めることができた。テーマはそれぞれ多岐にわたったが、丁寧なオリエンテーションを行うことにより、市街地の公民館を借りての学習発表会で個性を生かした発表を行うことができた。保護者はじめ多くの見学者からは、これまで頑張ってきたことに対する評価をいただくことができ、生徒の万ぞ買う感や達成感につながっていった。

3) 基礎学習

少人数による学習を行ってきた。6人の3年生にとっては、卒業後の進路が大きな関心事であったが、丁寧な個別指導を行うことにより、それぞれに自分の進路に向かって進むことができたことは大きな成果であった。集団学習や個別学習のあり方については、さらに実践と研究を深めていく必要がある。

4) 自治活動

イニシアティブをはじめ、様々な行事などにおいても学校の中心となって活動をリードすることができた。小学生や中学校1・2年生にとっては、大きな支えとなり、姿を示すことができた。今後に継続していきたい。

5) 国際社会での発信力の育成

小学校に同じ。

<2018年度末の組織・体制>

在籍数 12人

教職員数 9人

本務教職員 3人（教頭1、教諭1、運転・事務担当1）

兼務教職員 3人（校長1、教諭1、養護教諭1）

非常勤教職員 3人（音楽・国語講師2、英語指導2、美術指導1）